

日本語との対照から見えてくるもの
—台湾華語のモーダル助動詞「有(yǒu)」の「過去性」—

テイ ヤユン
鄭 雅云（京都大学）

teoznanazcatl@gmail.com

1. はじめに

1-1 テンス・アスペクト・モダリティは互いに異なる概念であるが、同一の言語形式がこれらにまたがる複数の意味や用法をもつ（ように見える）ことは珍しくない。

【日本語の主節末尾の「た」】

(1) [過去]

昨日、朝ご飯食べた？

(2) [完了]

もう朝ご飯食べた？

(3) [発見]

〈文脈：探していた鍵がポケットのなかにあるのを見つけて〉

あ、ここにあった！

【台湾華語のモーダル助動詞「有」】

(4) [過去・完了]

你昨天有吃早餐嗎？（昨日、朝ご飯食べた？）

(5) [過去または現在]

台北有下雨喔。（台北、雨降ってたよ。／台北、雨降ってるよ。）

(6) [結果状態]

你發現的時候，你座位旁邊的窗戶有破掉嗎？

（（カバンがないと）気づいたとき、座席の横の窓は割れていましたか？）

(7) [習慣]

我每天都有運動。（私は毎日運動をしています。）

(8) [強調]

你有餓嗎？（（ちゃんと／本当に）お腹空いているの？）

1-2 日本語の主節末尾の「た」の意味について、先行研究ではさまざまに論じられている (cf. 定延 2004)。「た」の基本的な意味が「テンス (過去) なのか、アスペクト (完了) なのか」に加え、そうした時間的意味と「ムード (話し手の態度) の意味」とのつながりについての議論も存在している。たとえば：

- テンスの意味とアスペクトの意味の両方がある (寺村 1984 など)
- アスペクトではなく、テンスが基本的な意味である (井上 2001 など)
- いわゆる時間的意味もムードの意味も、(事象の成立が確かなものと認識する) 話し手の「確述意識」から派生されたものである (森田 2001)
- いわゆるムードの意味はテンスの意味から導き出される (井上 2001、定延 2004 など)

1-3 台湾華語の助動詞「有」(および同系言語の対応形式) の意味に関する研究*においても、似たような状況が見られる。「テンス (過去) なのか、アスペクト (完了) なのか」という議論があったが、「有」が多様な意味的環境に現われることから「モダリティ」説も提案されている。しかし、モダリティ説においても、「有」の態度的意味 (強調) がどのように導き出されるか (あるいは、「有」の時間的意味がどのように導き出されるか)、つまり、「有」の態度的意味と時間的意味がどのようにつながっているのかは、研究者間で見解が異なる。

※本発表では、同系言語の「有」に関する先行研究を参照することがあるが、その際は (曹 1998_閩南) のように明示する。

- テンス (過去) ではなく、アスペクト (静止相) が基本的な意味である (中嶋 1979_閩南)
- アスペクト (完成) が基本的な意味である (湯ほか 1997_閩南など)
- テンス (已然) が基本的な意味で、態度的意味 (強調) は派生的なもの (蔡 2010_台華)
- 基本的にはモダリティ (realis) で、「状態や出来事の確かな存在や発生」を表わす。態度的意味 (強調) はより本来的なもので、アスペクトの意味 (完成・習慣) は派生的なものである (曹 1998_閩南)
- 基本的にはモダリティ (realis) で、「話し手がある事態が実現済み (realis) であると判断している」ことを表わす。態度的意味 (強調) は派生的なものである (遠藤 2014_客)
- モダリティ (肯定・確認)、テンス (現実性)、アスペクト (存在) の 3 つの範疇が融合した意味をもつ (范 2017: 573_閩ほか)

1-4 【問題の所在 ①】

台湾華語の「有」と日本語の「た」は、構文や機能において直接対応しているものが少ないが、先行研究の記述にどこか似ている側面は少なくない。また、定延 (2004) が日本語の「た」の先行研究に対して指摘したのと同様に、「有」の先行研究においても「『有』がどういう文脈でなぜ自然／不自然なのか？」という問題への関心が相対的に低い。「有」

の中心的意味や、諸意味・用法間のつながりについてさまざまな説があるが、「有」の使用文脈と自然さから説明する試みはそれほど多くない。

1-5 【問題の所在②】

「有」の意味記述に「realis」「現実性」などの用語がよく用いられる（曹 1998_閩南、Liu 2011_台華、遠藤 2014_客、范 2017_閩ほか）。realis（現実）は、irrealis（非現実）とともにモダリティにかかわる概念とされることがある。Mithun (1999: 173)の定義によれば、realisを示す形式は「知覚によって直接知ることができる事態、すでに起こった、あるいは起こっているというような実現された事態を表現する」。しかし、実際の記述において、realisは「現在・過去」や「已然」とはそれほど変わらない使い方で用いられることがある。

- 「有」は「話し手が現在の視点から已然（realis）の状況（現在の状態と過去の状態または出来事）に対する観察」を表わす（曹 1998: 329_閩南）
- 「有」は「事態が実現したことをあらわし、その完結については言及しない（遠藤 2014: 97_客）」

一方で、「客観的に実現されている、存在している事態のなかで、どういうものがどうい
うときに話し手に現実として見なされ、どういうものがどういうときに話し手に現実とし
て見なされないのか」という、realisを論じるうえで重要な議論はあまり見られない。この「事態の現実性ないし過去性」という問題は、「有」の自然さと密接な関係にあると考えられる。本発表では、「有」の使用文脈を観察・考察する際、この「事態の現実性（過去性）」に特に注目したい。

1-6 【本発表の趣旨】

- 強調用法の「有」（後述）が自然に使える文脈について観察をおこなう
- 観察結果をもとに、「有」の意味と事態の現実性（過去性）について考察し、「有」の強調用法と時間用法のつながりについて論じる
- 台湾華語の「有」と日本語の「た」にみられる諸意味・諸用法のつながりについて、その相似・相違を探る

2. 台湾華語の助動詞「有」の概要

2-1 台湾華語の「有」について

台湾華語の「有」の助動詞用法は同系言語である閩南語の影響によって成立した歴史をもっているが、現在、閩南語話者でない台湾華語話者の発話にもごくふつうに観察される。

2-2 助動詞「有」の2大用法

「有」の各用法は、先行研究によって呼称や扱いが異なるが、本発表では、暫定的に「有」を次の2つの用法に分類しておく。本発表で主に考察する対象は後者の強調用法の「有」であるが、論の前提として、ここで、時間用法の「有」の意味に対する発表者の現時点の暫定的な考えも述べておく。

【時間用法】

(4)–(6)や(9)(10)のように、「有」を「會(huèi)」に置き換えると時間的意味が変わるものがある。本発表では、便宜のため、これらを「有」の時間用法と仮称する。時間用法の「有」は、「○○○という事態は発話時点より前において観察(可能)である」ことを表わす。事態がどういう「形」で時間軸に存在しているかは不問なので、現実世界において、観察時点の後や発話時点の後も当該事態が続いている場合、(10)のように文が現在進行中の解釈が可能となる。「有」自体は「現在の事態」を表わしているわけではない。

※モーダル助動詞「會」:

可能性や未来などの意味を表わし、非現実を示す助動詞とされることもある(たとえば、曹1998_閩、范2017_{閩ほか})

(9) a. 你有吃早餐嗎？(朝ご飯を食べた？)

b. 你會吃早餐嗎？(朝ご飯を食べる？)

(10) a. 台北有下雨喔。(台北は雨降ってたよ。／台北は雨降ってるよ。)

b. 台北會下雨喔。(台北は雨降るよ。)

【強調用法】

一方、「有」を「會」に置き換えても文の時間的意味にあまり影響しないような場合もある(11)(12)。本発表では、このようなものを強調用法と仮称する。時間用法は主に個別的な動的事態を述べるものであるのに対し、強調用法は、たとえば、(8)(12)のように形容詞を伴うものや、(7)(11)のように習慣を述べるものなど、主に静的事態を述べるものである。

(11) a. 我每天都有喝很多水。(私は毎日(ちゃんと)たくさん水を飲んでます。)

b. 我每天都會喝很多水。(私は毎日たくさん水を飲みます。)

(12) a. 你有餓嗎？（（ちゃんと／本当に）お腹空いているの？）

b. 你會餓嗎？（お腹空いてない？）

2-3 本発表の考察対象：強調用法の「有」のうち、次の3つを順に考察していく。

－ 3 節：(7)(11)に挙げた習慣を表わすもの（以下、習慣文）

－ 4 節：(8)(12)に挙げた生理的知覚について述べたり尋ねたりするもの（以下、感覚文）

－ 5 節：ヒト・モノ・コトについて評価を述べるもの（以下、評価文）

3. 習慣文の「有」のニュアンスと「過去性」

3-1 「有」習慣文には、そうではない習慣文（ここでは「會」習慣文と比較する）にない「ちゃんと、欠かさず」といったニュアンスを感じ取ることがある(13a)。

(13) a. 我每天都有運動，但體脂還是降不下來。

（毎日（ちゃんと、欠かさず）運動している。なのに、それでも体脂肪は減らない。）

b. 我爸爸不喜歡待在家，每天都會去運動。

（お父さんは家にいるのが好きではない（から）、毎日運動に行く。）

そのため、（このニュアンスを出さずに）中立的に表現したほうが適切な場合に「有」は用いられない。たとえば、(13b)のように、父親のふだんの生活を淡々と語るような場面では「有」を用いるのは不自然である。一方、(13a)のような文脈では「有」が適切になる。

3-2 このようなニュアンスにより、「ちゃんと、欠かさず」おこなうべきでない行為を「有」習慣文で述べると、奇妙な文となる。たとえば、(14a)では「遅刻が求められている」というようなニュアンスを感じられる。

(14) a. 我每天上學都有遲到。（私は毎日（ちゃんと、欠かさず）学校に遅刻している。）

b. 我每天上學都會遲到。（私は毎日学校に遅刻する。）

3-3 「有」習慣文が表わす「習慣」は、あくまで「発話時より前に繰り返されていた行為」であり、過去から未来へと続くような習慣ではない。

(15) a. *以後我每天都有運動。

（意図した解釈：これから、私は毎日（ちゃんと、欠かさず）運動する。）

b. 以後我每天都會運動。

（これから、私は毎日運動する。）

(16) a. 目前為止我每天都有運動。

(これまでのところ、私は毎日（ちゃんと、欠かさず）運動している。)

b. 目前為止我每天都會運動。

(これまでのところ、私は毎日運動する。)

3-4 先行研究において、習慣文の「有」は、強調のために現われ「断定」や「確認」の意味を表わすとされることがある（たとえば、鄭 2013: 27-8）。しかし、なぜ「断定」や「確認」の意味が「ちゃんと、欠かさず」のニュアンスをもたらすのかについても、3-2 と 3-3 の現象についても説明できない。

3-5 【本発表における「有」の意味の提案】

「有」は、「自分の記憶や知識（のうちの特定の範囲）に対して『Pを検出できるかどうか』という検出の作業をおこなうと、結果として『検出あり』を得られる」ことを意味する。

※「検出」という作業と後述する「問題意識」は、定延（2001, 2004）の「探索」と「探索意識・探索課題」という概念から着想を得ているが、関係性・互換性については今後の課題としたい。

3-6 上記の提案を採用すると、「有」が「未来の習慣」に用いられない現象（3-3）だけでなく、「ちゃんと、欠かさず」のニュアンス（3-1）も、事態によっては奇妙に感じる（3-2）理由も説明できるようになる。

➤ 時間副詞「毎日」をもつ習慣文において、「Pを検出できるかどうか」という仮想的な検出作業をおこなう対象範囲は「毎日」という表現によって規定される「自分の記憶のうちの（ある一定の期間における）一日一日」であると考えれば、「有」が「未来の習慣」を述べられないのは、まだ経験していない期間や状況を検出作業の対象範囲とすることができないためであると説明できる。

➤ 3-1 で指摘した「ちゃんと、欠かさず」というニュアンスについては、「『Pを検出できるかどうか』を、一日一日ごとに検出の作業をおこなった」という（心的・仮想的な）プロセスから来していると説明できる。

➤ 3-2 における「遅刻が求められているように感じられる」というニュアンスも次のように説明できる。上述の「検出の作業」とは「『検出の課題であるP』を見つけだす」という作業にほかならない。人が「何かに注目して見つけだそう」とするとき、「見つけたい」という気持ちを伴うのが一般的と言えるであろう。「遅刻が求められている」というニュアンスは、この「見つけたい」という気持ちから生じたと考えられる。

3-7 「検出の作業が可能な範囲」は、「有」の現実性ないし「過去性」を説明するのにかかわるものである。4 節では、発話時現在の状態のなかに「検出の作業が可能な範囲」に入るものとそうでないものがあり、それによって「有」の自然さが変わることを確認する。

4. 感覚文の「有」の使用制約と「過去性」

4-1 発話時における知覚主体の生理的感觉（特にいつもと少し違う感じ）について尋ねたり述べたりする感覚文において、「有」は用いられにくいということが報告されている（張 2008: 42-3_客、黄 2007: 58_閩）。たしかに、以下の例はいずれも不自然である。（どこが不自然なのかを日本語の訳にある程度反映させている。なお、これらの例から「有」を削除しても自然にはならないが、非現実の「會」に置き換えると自然になる。）

(17) 〈女性と一緒に夜景スポットに到着するなり、女性に対して〉

??你有冷嗎？ 我外套給你穿？

（寒くなっている？ わたしの上着をあげようか？）

(18) 〈駅の階段で転んだが、何もなかったのようによく立った友人に対して〉

??沒事吧？ 有痛嗎？

（大丈夫？ 痛くなっている？）

(19) 〈1人で夜食を食べに行きたくないのに、近くに住んでいる友人に LINE して〉

??欸，你有餓嗎？ 要不要一起去吃宵夜？

（ねえ、お腹は空いているの？ 一緒に夜食を食べに行かない？）

【先行研究の説明】

「有」は、話し手が肯定の回答を期待する場合に用いられる形式であるため、上記のような形容詞と一緒に使えない（cf. 黄2007: 58_閩）。

➢ 話し手が肯定の回答を期待していると考えられる(19)でも、やはり自然に使えない

4-2 「有」が現われている感覚文の例は存在する。なかには、「話し手が肯定の回答を期待する」とは考えられないものもある（21-22）。

(20) 〈看護師が分娩室でお産の良いタイミングを待機している女性に対して〉

現在怎麼樣？ 肚子有痛嗎？

（今はどんな感じ？ お腹は痛くなった？）

(21) 〈事故の現場で医療スタッフが負傷者に対して〉

医療スタッフ： 這裡痛，還有哪裡痛？（ここが痛いですね。あと、どこが痛い？）

負傷者： 這裡。（ここ。）

医療スタッフ： 那手有痛嗎？（で、手は痛くない？）

(<https://news.tvbs.com.tw/local/331088>、2024/01/12 最終閲覧)

(22) 子供：要開冷氣嗎？

（冷房つけるの？）

母親：你有熱嗎？ 如果有就開。

（(ちゃんと) 暑いのか？ もし、(ちゃんと) 暑いんだったら、つける）

(<https://yoyoman822.pixnet.net/blog/post/54777896>、2024/01/12 最終閲覧)

(23) 等好久終於要去吃大餐了，有肚子餓嗎？

（こんなに待って、やっとご馳走を食べに行くんだね。お腹は空いている？）

(<https://today.line.me/tw/v2/article/KwkNpX0>、2024/01/12 最終閲覧、一部変更)

4-3 4-1 と 4-2 の差は、「検出作業の対象範囲」にかかわる。

4-1 と 4-2 に挙げた例は、いずれも発話時現在に成立している状態（知覚主体によって経験中の感覚）を問題にしているが、「発話時より前にすでに知覚主体によってある程度認識され把握されているかどうか」で異なる。

- ▶ 4-2 の各例では、聞き手が質問されるまでに（＝発話時より前に）、すでに自身の生理的感覚について「何かしらの異常に気づいたり」「特定の感覚があるかどうか観察したり検討したり」していたことが明らかである、あるいは、そのように想定するのが容易である。
- ▶ それに対し、4-1 の各例では、むしろ質問されるまで、聞き手は自身の特定の生理的感覚について、気づいたり観察したりしていなかったと想定するのがふつうである。

上記のことを 3-5 での提案にあてはめて捉えると、次のようなことが言えるであろう。4-2 における話し手がおこなっているのは、聞き手が「感覚P」について何らかの把握をしていると見たうえで改めて「あなたが把握している範囲で、『感覚Pを検出できるかどうか』という検出の作業をおこなうと、結果として『検出あり』を得られるか」を尋ねていることであり、検出作業の要請である。これらの例において、検出の作業がおこなわれる範囲は、発話時より前までに形成された聞き手の認識内容である。一方で、発話時（＝質問時）より後に形成される（と考えられる）聞き手の認識内容は、「検出の作業が可能な範囲」に入ることはできない。そのため、4-1 の諸状況で「有」を用いて検出作業の要請をおこなうと不自然になる。

4-4 上述の「検出の作業が可能な範囲」と「事態の現実性（過去性）」に、「問題意識の有無」がかかわることがある。次の5節では、問題意識の有無によって「有」の自然さが変わることを確認する。

5. 評価文の「有」の問題意識と「過去性」

5-1 ヒト・モノ・コトに対する話し手の発話時における評価を述べる評価文に「有」が現われることがある。

(24) 聽說歌劇院離飯店很近.. 一踏出飯店往左看.. 呼..果然有近喔..

(オペラハウスがホテルに近いと聞いた.. ホテルを出て左のほうへ見ると.. ふーん、言われた通り、近いねえ)

(<https://nina0936.pixnet.net/blog/post/30580244>、2024/1/12 最終閲覧、一部変更)

(25) 〈よくチェックしているインフルエンサーが SNS に新しく投稿した自撮りの写真に対するコメント〉

這張有漂亮喔。

(この写真は (ちゃんと) きれいだねえ。)

この「有」は、「話し手が期待する理想値の実現や到達」を表わすために現れているとされることがある (張 2008_客)。しかし、下の(26)のように、形容詞の評価的意味が「話し手が期待する理想値」として解釈されにくい場合でも「有」が現われうる。

(26) 〈電子掲示板の投稿とそれに対するコメントのひとつ。【】内はスレッドのタイトル〉

A：【婚紗包套的價位】

是去婚紗展看的。11 萬 (有包括彩妝、攝影師等)，外拍車要另外計 (2500)。

想問這樣會太貴嗎…？

【ウェディングドレスのフルプランの価格帯について】

ブライダルフェアで見つけたんです。11 万で (メイクやカメラマンなどを含む)、ロケ車は別料金 (2500)。これって高すぎるのかって聞きたいんです。)

B：加起來有貴耶…

(合計すると、まあまあ高いねえ…)

(<https://www.marry.com.tw/marrybar/41271>、2024/1/12 最終閲覧、一部変更)

5-2 前項で挙げた例において、話し手は単に発話時現在におこった評価をそのまま述べているだけではない。評価の対象 (ヒト・モノ・コト) を知覚・評価することに先立って形成

された問題意識（「当該対象にPという評価が存在するが、実際問題として、どうなのか？」あるいは、より単純に「当該対象はPに関してどのくらいのレベルのものか？（評価してやろう）」）に答える形で評価を述べている。この場合、「有」の使用が自然である。一方で、このような問題意識を、対象を知覚・評価する前に話し手がもっていない場合、「有」は自然に使えない。

- 電車の中を何気なく見てイケメンを発見した場合、(27a)のように評価を述べるのは自然であるが、「有」を用いた(27b)はあまり自然ではない。

(27) a. 哇... 那個人好帥喔[↓]。

(わぁ、その人、かっこいい！)

b. 哇... 那個人有帥喔[↑]。

(わぁ、その人、かっこいいねえ！)

- (24)の文脈を少し変え、「話し手が問題意識をもっている」と想定しない文脈にすると、「有」をもつ文の自然さが低くなる(28b)。ふつうは、「有」を用いない表現、たとえば、(28a)のように言うであろう。

(28) 〈友人と一緒に、これから行く観光スポットのオペラハウスの場所を Google Map で確認してみたら、今の所在と同じエリアだったとわかったとき〉

a. 欸！ 很近耶[↓]。

(お、近いね！)

b. 欸！ 有近喔[↑]。

(お、近いねえ！)

5-3 5-1 の各例と 5-2 の各例における「有」の自然さの差は、「検出の作業」の実施可能性によるものと捉えることができる。

- 5-2 の各例で「有」があまり自然ではないのは、ただいま知覚・認識した対象に対して、一瞬で「Pを検出できるかどうか」という少し手間のかかる作業をおこない、「有」でその結果（検出あり）を述べることもできないためである。
- 発話時より前に問題意識をもった 5-1 の各例では、それが検出の作業をおこなうための「下準備」となるため、ただいま知覚・認識した対象に対しても、一瞬で「Pを検出できるかどうか」という作業をおこない、「有」でその結果を述べるのが可能である。

5-4 「有」の文には「確認」や「断定」のニュアンスがしばしば伴う（たとえば、5-1 の(24)(25) が特に顕著であるように発表者には感じる）。また、平叙文よりも疑問文の作例のほうが簡単に作れるという直感がある。これらは、すべて「問題意識」に由来するものと考えられるかもしれない。

6. 日本語の「た」と台湾華語の「有」

6-1 いわゆるムードの「た」は、発話時現在に成立している事態について述べることができ、「過去」という時間的意味を表わすように見えないうえに、話し手の何らかの態度（発見／思い出し／知識修正など）を表わすように見える。

この点で言えば、台湾華語の強調用法の「有」も同様である。いわゆる強調用法の「有」は、発話時現在に成立している事態に用いられる場合、時間的意味（過去・実現済みなど）を見出せないうえに、話し手の何らかの態度（強調／肯定など）を表わすように見えることがある。

6-2 ムードの「た」の意味を過去概念を経由して考えるという立場がある（定延 2004、井上 2001 など）：ムードの「た」も「過去」を意味し、テンスの「た」とは、「何が過去なのか（命題の成立時点／探索体験時点／問題の知識に触れた時点／古い知識の登録時点）」が異なる（定延 2004）。

6-3 上述の「た」の分析から、「客観的に同じく現在事態であっても、話し手は必ずしも同じように捉えるとは限らない」ということがわかる。本発表では、この観点から非時間用法（つまり、強調用法）の「有」を考察した。その結果、時間用法の「有」と非時間用法の「有」は、ともに「（話し手の発話時より前における認識という意味での）過去性）」と深くかかわっていることが明らかになった。

- 時間用法の「有」：事態が発話時点より前に観察可能か
- 習慣文の「有」：検出作業の実施範囲が発話時より前までの期間か
- 感覚文の「有」：検出作業の実施範囲が発話時より前までに形成された聞き手の認識内容か
- 評価文の「有」：話し手が発話時より前から、ただいま知覚・認識した対象に対して、問題意識をもっているか

参考文献

- 張桂珠 (2008) 「試論臺灣四縣客家話與判斷有關的情態詞」『中国語学』255、39–55.
- 鄭文琪 (2013) 「台湾国語における“有+VP”の使用状況」『お茶の水女子大学中国文学会報』32、17–30.
- 遠藤雅裕 (2014) 「南方漢語のモダリティ標識「有」について:臺灣海陸客家語を中心に」『中國文學研究』40、89–113.
- 范晓蕾 (2017) 「语义地图的解析度及表征方式以“能力义为核心的语义地图”为例」『世界汉语教学』2、194–214.
- 黃育正 (2007) 『台灣閩南語情態動詞「會」及其衍生複合詞研究』國立新竹教育大學台灣語言與語文教育研究所碩士論文.
- 井上優 (2001) 「現代日本語の「た」—主文末の「...た」の意味について」つくば言語文化フォーラム (編) 『「た」の言語学』、97–163、ひつじ書房.
- Mithun, Marianne (1999) *The languages of native North America*. Cambridge: Cambridge University Press.
- 森田良行 (2001) 「確述意識を表す「た」」『言語』30 (13)、72–77.
- 中嶋幹起 (1971) 「福建語における“有”“無”の語法範疇について」『アジア・アフリカ言語文化研究4』、75–85.
- 定延利之 (2001) 「探索と現代日本語の「だけ」「しか」「ばかり」」『日本語文法』1(1)、111–136.
- 定延利之 (2004) 「ムードの「た」の過去性」『国際文化学研究』21、1–68、神戸大学国際文化学部.
- 湯廷池・湯志真・邱明麗 (1997) 「閩南語的「動貌詞」與「動相詞」」『橋本萬太郎紀念中國語學論集』、283–301、内山書店.
- 寺村秀夫 (1984) 『日本語のシンタクスと意味II』、くろしお出版.
- 蔡雅雯 (2010) 「台灣華語「有字句」的語法及語義」政治大學華語文教學碩士學位學程學位論文.
- 曹逢甫 (1998) 「台灣閩南語中與時貌有關的語詞“有”“Ø”和“啊”試析」『清華學報』28 (3)、299–334.